

県共闘

神奈川県共闘ニュース

発行 神奈川県労働組合共闘会議
住所 〒231-0028
横浜市中区翁町1-5-14新見翁ビル4階
電話・FAX 045-319-4391
e-mail kanagawaroudousoudan@gmail.com

2026年
1月22日
第45号



県共闘ホームページ
Kana-kenkyoto.org

2026年

決意新たに命と暮らしを守る闘いを共に！

昨年12月、第35回県共闘大会にて新しく議長になりました全国一般神奈川出身の沢口です。労働者、生活者にとって厳しい状況下、県共闘加盟各組合皆さんの、職場で、地域での奮闘に敬意を表します。私たちに課せられた課題は山積みですし、各組合の運営も難しい状況下であります。県共闘内の連携を深め、地域、全国との繋がり、課題の共有化を図りながら、皆さんと共に進んでいきたいと考えています。

2026年は衝撃的に幕を開けました。アメリカ・トランプのベネズエラ攻撃、大統領の拘束という、ロシア、イスラエル、そして昨年アメリカの中東地域攻撃に引き続く、大国・強国の軍事力をもっての一方的な強行でした。更にコロンビ

ア、パナマ、イラク、グリーンランドに言及するなじ強国のやりたい放題が露骨になり、「新たな帝国主義」と言う世界の分断と対立が更に深まる年明けとなりました。国内においても昨年登場した高市政権は、その本質をあらわに、アジア地域の緊張を煽り、軍事予算を拡大し、排外主義・人権侵害を拡大しながら戦争をする国に一気に突き進んでいます。同時に進めている金融政策とバラマキ予算は財政の悪化とインフレを招き、11ヶ月連続での実質賃金のマイナスとなっています。また、社会福祉政策の切り捨ては、私たちの医療、介護負担を増大させるとともに、医療・介護業界がその運営すらままならず、結果的に多数の市民が医療・介護サービスから漏れ出る状態と

なっています。今こそひとり一人の雇用と生活、そして命と権利を何よりも大事にしていく取り組みと、あらゆる戦争に反対していく取り組みが求められています。この1年、事務局、幹事、組合員の皆さんと共に「安心して働き、安心して生活できる社会」の実現にむけて進んでいきましょう。



議長 沢口 和善

JAL不当解雇撤回情宣開催のご案内

日時 1月26日 17時30分～
場所 横浜駅中央西口出口付近

★JALは、2010年大晦日、経営破綻の責任を労働者に押し付け165名を不当解雇した。しかし、その後の闘いで、不必要的解雇であったことが明らかになったものの、JALは不当解雇を放置。不当処分撤回の闘いは16年目に入った。

解雇自由な社会では、とても安心して暮らせず、働く者の生活設計は成り立ちません。全国の力を一つにし一日も早い解決を勝ち取っていきましょう。ご支援よろしくお願いいたします。

県共闘・26春闘学習会開催のご案内

日時 1月30日 18時30分～
場所 エルプラザ 8階にて

★物価高騰が続き実質賃金は目減りしています。なぜこのような状況になってしまったのか?また、労働条件の最低基準の労基法改正(改悪)が労働政策審議会労働条件分科会で話し合われています。なぜ今、この時期の改正なのか?現状を報告を伺い、何が変わり、生活がどう変わるのかを学び、次の一步へ進むための学習会です。是非ご参加を!

「第52次寿越冬

== 今年もいろいろあった! ==

報告 寿日労 近藤昇

今次越冬も1人の命をみんなで守り路上死を出さず厳寒期を生き抜く闘いが、9日間の行政機関が休む年末年始、寿公園を拠点として取り組まれた。10月に県市への要求書提出から事実上始まっている。そしてこの闘いはすでに50年の長きに及んでおり、この長さ自体が寿住人や野宿を強いられる人々の命がどれだけ軽んじられてきたかを示しているもので強い怒りを禁じ得ない。

そのような怒りをもエネルギーに、12月26日の突入集会から越冬闘争が開始された。実はこの日の前日に1月分の生活保護費がすでに支給されており、2月にならなければ次の保護費が支給されないため、野宿者のみならず高齢の寿住人も厳しい生活に追い込まれるのがこの時期なのだ。まさにこの時期は命を守る闘いの日々となっており、そしてこの行政の休廻期間中に相談や支援が取り組まれているのは、県内では何と我が寿のみなのだという。

期間中、例年通りテントや厨房が公園内に所狭しと立ち並び、29日からほぼ毎日炊き出し、夜間パトロールを行い、生活・医療・法律・労働(県共闘の仲間たち、ありがとう!)の無料相談がテント前で行われ、多くの人が訪れて相談と交流の場として賑わっていた。また、寿・園内をはじめ市内の3コースの夜間パトロールでは45～55人の路上生活で夜を過ごす仲間と出会う。連日の炊き出しでは5百食以上の配食を行い、中には千食を超えた日もある。この炊き出しでは特筆すべきことが一つ。それは4日に市内のインドネシアコミュニティが、インドネシア料理3百食を持って参加してくれたことだ。寿は外国人と生きていく、その実践として非常にうれしかった。また、この時期行った仮放免中のイラク人への支援も併せて報告しておく。今次越冬には5百名を超える支援やボランティアの参加があった。県共闘の仲間たちに再度感謝の念をお伝えし報告とする。



(労働相談ブースにて)